

私を育てた
あの時代、あの出会い

第5回

学ぶ楽しさを感じる授業の神髄を 恩師の授業に見て、学んだ

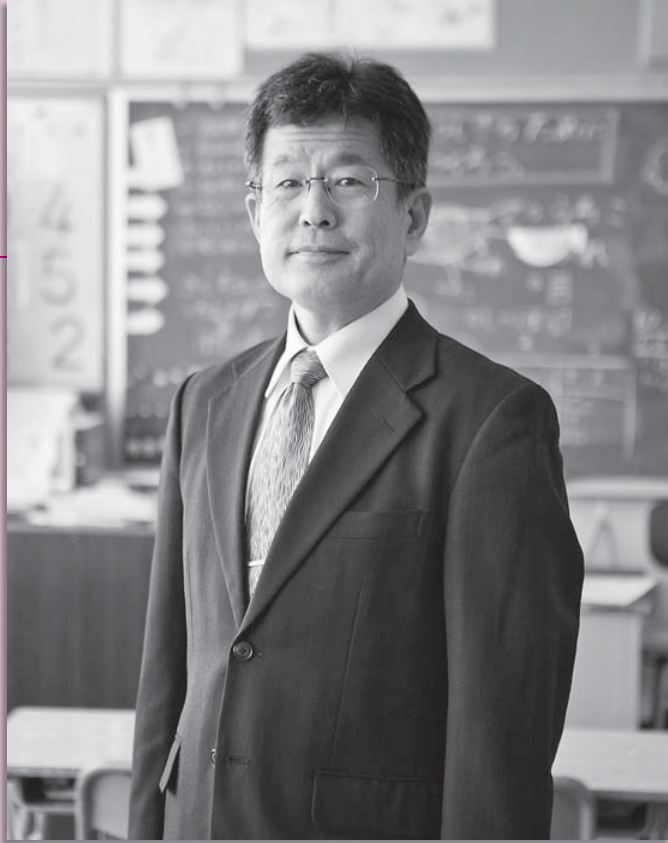
北海道 札幌市立新琴似しんとこ小学校校長 蔵本康彦 KURAMOTO YASUHIKO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、蔵本校長が語る。

子どもが引き込まれていく
授業に鳥肌が立った

私は初任校で、生涯の目標とする先生に出会いました。校長の菅原末吉先生です。私と同じ理科が専門で、その授業はとにかく「学ぶことは楽しい」と感じるものでした。菅原校長の数少ない声掛けで、子どもたちは次々と気付きや考えを発言し、学びが深まっていく。子どももしっかり見取り、緻密な準備をしていないと出来ない授業でした。菅原校長は子どもの興味を引き出すアイデアも豊富でした。ある日の

全校朝礼で、壇上に立った先生はおもむろにポケットから空の牛乳瓶と卵を出し、瓶の縁で卵を割って殻をむき始めました。「あれはゆで卵だ。何が始まるのだろう」。子どもたちはもちろん、私たち教師も壇上に釘付けになりました。先生は次にちり紙を取り出し、丸めて火を付けました。それを瓶に入れ、ゆで卵で口を塞いだのです。すると、ゆで卵はするすると瓶の中に吸い込まれていき、「すぽっ」と丸ごと入っていました。何が起きたのか、あ然としていた子どもたちも先生は一言、「分かるか?」と言って壇上を降



くらもと・やすひこ 専門教科は理科。札幌市立二条小学校、札幌市立山の手南小学校、札幌市立前田北小学校、札幌市立栄緑小学校などを経て、2007年度、札幌市立新琴似小学校に校長として着任。

高校時代

父、兄が教師という教師一家に育ち小学校教師を志す

大学時代

一度は別の職業を目指そうとしたがやはり教職の道に進む

1975 (昭和50)

初任校の札幌市立北光小学校で菅原末吉校長と出会う。菅原校長は北海道全体の理科教育の推進においても中心的な存在であり、その素晴らしい授業を見て教師の面白さに目覚める



初任校で修学旅行先の下見に訪れた時の写真(右端が蔵本校長)

2001 (平成13)

札幌市立栄緑小学校に教頭として赴任。03年度に同校で校長に昇任

2007 (平成19)

母校の札幌市立新琴似小学校に赴任

*プロフィールは取材時(2011年3月)のもので

「子どもの言葉を伝えて 先生方を励ましていきたい」



3年間の指導で学んだ 準備と全体計画の大切さ

菅原校長が異動されるまでの3年間、毎週末、指導案を書き続けました。スポーツ少年団の指導を終えてから書くため、深夜までかかることもあり大変でしたが、大きな学びがありました。一つは準備の大切さです。一度、指導案を家に忘れた時に、菅原校長から初めて厳しく怒られました。授業がうまく出来なくても、準備をした上でなら改善のしようがある。しかし、気を抜いて準備が至らずに失敗したら、それはただの手抜きであり子どもたちに失礼だと。

もう一つは、全体計画の重要性です。指導案で最も頭を悩ませ、時間をかけたのは単元計画でした。学びは積み重ねによって得られます。1時間の授業を考えるためには、単元目標に向けた全体の流れの中で各授業のねらいを明確にする必要があります。校長となった今もこの姿勢は同じで、年間の学校経営を考え、例えば朝礼で話す内容も、年度当初に時期ごとの計画を立てています。菅原校長が常々おっしゃっていた「学びの主役は子ども」の授業が出

りました。子どもたちは目を輝かせて大歓声を上げ、休み時間には校長室で先生を質問攻めにしました。しかし、菅原校長は「自分で調べてごらん」とだけ答えました。子どもたちはすぐに調べていました。子どもには自ら学ぶ楽しさを、私たち教師には、指導に工夫を凝らす大切さを伝えたかったのだと思います。

菅原校長の授業づくりから、私も多くを学びたい。そんな思いで、毎週、理科2時間分の指導案をノートに1ページずつ書き、月曜日の朝15分ほど、菅原校長に見ていただきました。先生は、改善の必要な部分がどこかを指摘するだけで、具体的な方法は教えてくれません。その代わり、時々、私の学級で実際に授業をして見せてくださいました。私としては同じような発問や声掛けをしているつもりなのですが、子どもたちの反応は全く違います。私は授業記録を取り、先生の技を必死で学ぼうとしました。

来るよう、子どもの見取りも自分なりに工夫するようになりました。私は1日1枚、座席表に子どもの様子を書き込みファイリングしました。1日に10人ほどしか書けませんが、毎日書くうちに自分の思い込みではない、一人ひとりの個性が分かり、働き掛け方がつかめるようになりました。更に、書き込みを見て「あなたは昨日こうだったけれど、今日は出来たね」と良いことはどんどん声を掛けました。自分を見てくれていると子どもが喜び、前向きな気持ちになれることも座席表の良さです。今も先生方に実践を薦めています。ある日、菅原校長に「子どもたちが今日の授業は良かったと言っていたよ」と声を掛けられました。また、頑張っている他の先生方の様子もよく話されていました。直接褒められることは少なかったですが、一人ひとりの教師をよく見てくださっていたのです。当時、学校に互いに切磋琢磨する雰囲気があったのは、菅原校長のそうした声掛けがあったからだと思います。今でも菅原校長は憧れの存在です。校長としてその姿に少しでも近づけるよう、これからも勉強していきたいと思っています。